

『一心一体』

インターネットは、
心と心の隙間を補うツール。

息を吸う人。
息を吐く人。

呼吸の中にネットあり。

P/PEP BITS

「糸巻き」 フレデリック・レイトン



佐谷宣昭 Nobuaki Satani

1972年生まれ。九州大学工学部建築学科卒業。2000年九州大学大学院人間環境学専攻博士課程修了、博士（人間環境学）。翌月起業。後パイブドビット社長CEO。明日の豊かな情報生活に貢献したいとの想いから、「情報資産の銀行」の必要性を説く。官公庁や都市銀行、小売業など10,096の事業者へ情報資産プラットフォーム「スパイラル(R)」を提供中。

株式会社パイブドビット
東京都港区赤坂2丁目9番11号
03-5575-6601(代表) <http://www.pi-pe.co.jp/>

『カレーと街の再生』

カレーと言えば下北沢！ 「運命の一皿を探そう！ カレーに恋する10日間」と題して、今年も下北沢でカレーフェスティバルが開催される。カレーと言えば神保町や海軍カレーの横須賀が有名だが、下北沢も負けてない。3年目の今年は、100の店舗が競ってカレーを提供する。

下北沢には千五百軒ほどの店舗がある。そのうちの100店舗が参加するということは、15軒に1軒がカレー屋さんということになる。すごい割合だ。下北沢には洋服屋さんや雑貨屋さんなど、様々な種類のお店があるのだから。そんなに多くのカレー屋さんがあるのかと疑われるかもしれないが、実はそうではない。いわゆるカレー屋さんには20軒程度しかない。喫茶店やバーなど、カレー屋さん以外でカレーを出すお店が少なくないのだ。カレーが日本のソウルフードであることを証明していると言える。下北沢には、「下北沢、カレー屋」と検索しても見つけられない、隠れたカレーの名店がひしめき合っている。

このイベント、実は当社が主催しているのだが、IT企業の当社が何故カレーのイベントを開催しているのか、不思議に思われるかもしれない。学生時代に都市計画を学び、今はITを生業としている私には、ネットの普及が街のコンテクストをバラバラにしてきた、という問題認識がある。ネットは、下北沢に住む人たちが

遠方から買い物することを容易にした。生活の舞台である街角の会話を奪ってしまったかもしれないと思っている。

今やラーメンと並んで日本を代表するソウルフードとなったカレーの力を借りて、そこにITの力を上手く活用することで、何とか街のコンテクストを再構築することが出来ないか。カレーをきっかけに、初めて訪れる喫茶店のマスターと仲良くなり、たまたま席を共にした客と友達になり、ネットで交遊関係を維持しながら、再会を約束する。友達づくりの街、下北沢。この街を舞台に、そんなストーリーが展開されれば、何て素敵だろうと思っている。

今年も外国人も沢山集めたいと思っている。日本のカレーは世界の人たち、とりわけアジアの人たちの舌を唸らせることだろう。甘いタマネギに柔らかく煮込んだお肉。あなたはどんなスパイスがお好みですか？ カレーを食べながら、IT屋さんのささやかな挑戦を見守って頂きたいと思う。10月10日にスタートする「下北沢カレーフェスティバル」でお会いしましょう。